

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4790100285		
法人名	医療法人天仁会		
事業所名	グループホームうえの家 2(3階)		
所在地	沖縄県那覇市上之屋408-4		
自己評価作成日	令和2年11月22日	評価結果市町村受理日	令和3年 3月 23日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/47/index.php?action=kouhyou_detail_022_kihon=true&JigyosyoCd=4790100285-00&ServiceCd=320
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 介護と福祉の調査機関おきなわ		
所在地	沖縄県那覇市西2丁目4番3号 クレスト西205		
訪問調査日	令和2年 12月21日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>ご入居者の皆様が安心して寛げ、穏やかに過ごされるよう、職員一同支援させていただきます。高齢化、重度化していく中で、看護師と連携しながら体調面の変化を見逃さないよう注意してケアに当たっています。今後も必要なニーズに応えられるよう支援してまいります。</p>
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>医療法人を母体とする複合施設で、医療やリハビリ等との連携が図られている。利用者の状態変化に伴い、今年度看護師を配置し、今後看取りを希望する利用者に対応できるよう体制を整えている。利用者の受診には家族が対応し、職員が病院で待ち合わせて服薬の相談を行い、主治医との情報を共有し、介護計画の見直し等に反映させている。職員は勤続年数の長い介護リーダーに相談して助言を受けることでストレスが軽減され、利用者が穏やかで家庭的な生活が支援できるよう努めている。備蓄メニューに発注数や消費期限等も記入し管理を行っている。入居者個々の非常用袋に3日分の衣類、オムツ類、ローテーションで薬等を入れ、非常時に備えている。毎年利用者と職員約40名が参加する昼夜を想定した「地震を起因とする災害避難訓練」を行っている。</p>

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 グループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らさせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

確定日:令和3年3月15日

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念の掲示を行い、常に意識付けし実践しています。今年はコロナ禍の中で色々な制限がありますが、努力するよう心掛けています。	事業所理念の下、2020年「地域と共に事業所づくり」を今年度のテーマに掲げ、家族や親戚等が参加してのクリスマス会やフェスタを開催している。家庭的な環境や関係作りのため、誕生会や母の日、敬老会を行い、プレゼントやケーキを用意し、利用者と職員が笑顔で暮らせるよう家庭的な雰囲気作りに努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	今年はコロナ禍の中で恒例の行事が中止となりましたが、挨拶を忘れなかったり、ポスター掲示などで次に繋げていきたいと考えます。	利用者は初詣で、おみくじやお守りを求めに神社や瀬長島へドライブに出掛け、職員は地域や家族との結びつきを大切にする支援に取り組んでいる。その後、予定していたイベントがコロナ禍で中止となっている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	交流ができない中、これまでの建物入り口での掲示物での発信を継続。また、看護師を中心に「オレンジガーデンプロジェクト」を行っており、これからも広げていきたいと考えている。	/	/
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	個々の専門的な知識からの助言、アドバイスをいただき、施設のケアについて考え、検討しながら改善しています。	ユニット合同で年6回定期的に開催する予定であったが、3月と5月はコロナの影響により中止とし、資料を構成員へ送付している。7月以降は、コロナ感染防止を考慮するとの法人の方針で、家族と利用者は参加させず開催している。前回課題の家族参加については、参加依頼を行い、開催時に案内を行うこととしている。議事録の内容を、ユニット別に明記することが望まれる。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	がんじゅ一課や保護課担当の方から助言、アドバイスをいただいています。事故報告については細かい内容をお伝えし、ご家族との対応についても声掛けいただいています。	運営推進会議に、行政担当職員が毎回参加し、会議報告書の記入方法や情報交換を行っている。会議への案内や事故報告書の提出時に利用者の状況等を説明している。コロナ対策についてや家賃の定額制等について保護課とも連携し、協力関係を築いている。	

自己評価および外部評価結果

確定日:令和3年3月15日

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	玄関前や居室でのセンサー対応や離籍時の注意。ワークシートなどからの知識を深め、業務内で活かすよう心がけています。	身体拘束に関するマニュアルを作成している。職員はワークシート形式で、身体的拘束等の適正化に関する理解を深めるため、年2回研修を実施している。毎月職員間で身体拘束委員会が開催され、議事録も作成している。運営推進会議において身体拘束についてアドバイスがあり、車椅子の変更が行われた。	
7	(6)	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	ワークシートでの研修はもちろんですが、日ごろの着替えや入浴時の身体観察。表情の変化などにも注意を払っています。入居者の小さな傷やアザなども原因も含めて申し送りするように努めています。	「身体拘束、及び行動制限廃止マニュアル」が作成されている。定期的に権利擁護等の職員研修を実施している。入浴時や訪問診療時等に、皮膚の状態を確認して赤みがないか等、観察結果を職員間で共有し、見過すことがないように注意を払っている。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	法人内専門職へ確認を行ったり、活用している入居者については情報を共有するようしており、必要性について学べるようにしています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居時には時間をかけて読み合わせし、事例なども加えながら理解していただくようにしています。解約時には次への予定を確認し、不安を取り除けるように努めています。		
10	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族への満足度調査、面会時や受診時などに多く聞き取りをしています。入居者には日々の会話の中から要望を聞き取り、あるいは推測し反映できるようにしています。	利用者からの意見や要望は、日々の関わりの中で把握し、混ぜご飯だと食が進む利用者へは嗜好を栄養士に提案し、献立に反映させている。年1回家族に対して、満足度調査を実施しているが、特に意見や要望はなかったが、家族から日頃の感謝のお礼にとマスクを提供する事例があった。	

自己評価および外部評価結果

確定日:令和3年3月15日

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ミーティングや常日頃の申し送り、フィードバック(個人面談)などで確認できている。意見を出しやすい雰囲気作りをに努めている。	ミーティングや申し送り時の他、個別面談等で職員から意見を聞く機会を設けている。新型コロナウイルス感染症予防のために職員からの要望で、アクリル板・サーキュレーター・非接触型体温計が、コロナ対策支援金で購入されている。	
12	(9)	○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	フィードバックも含め常日頃から各自の思いや環境を確認し、できえる職場環境作りを心がけています。	法人による就業規則が整備され、各種休暇や手当等、労働条件が規定されている。健康診断は、年1回と夜勤者は年2回実施され、定期健診の費用の一部補助や人事考課制度による年2回の面接も実施し、職員が働きやすい環境の整備に取り組んでいる。コロナ禍の介護事業所援助金5万円も職員に支給されている。	
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	今年は特にワークシートを中心に研修を行っています。人事異動で配置になった看護師については看護師協会主催の研修に参加していただいた。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他事業所の専門職や法人内での交流、コミュニケーションを図り、相談できる機会を大切にしている。		
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	まずは情報提供書やご家族の情報から確認していますが、ご本人に相對するときには情報だけにとらわれず、耳を傾け観察し、関係性を深めるよう心掛けています。		

自己評価および外部評価結果

確定日:令和3年3月15日

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族の要望や考え方を理解しつつ、できる、できないをはっきりお伝えするようにしています。できないことは別の提案を行いながら、安心できる環境と認識していただくように努めています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人、ご家族の真の希望は何であるのか、そのうえで必要なのか、できるサービスなのかを見極めながら、職員間で認識し支援しています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご本人を尊重し、生活の一部であったり、過去の立場や経験されたであろうことなどを考え、同意を得ながらケアするよう努めています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご本人とご家族の関係性を理解。それを踏まえながら情報交換し、常日頃の状態をお伝えすることも行っています。時には実際に介助していただいたり、共に支えていけるように努めています。		
20	(10)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会に来られた時など日頃の様子をお伝えすることはもちろんですが、会話の仲立ちを行ったりするなど対応しています。	馴染みの人や場との関係継続については、本人や家族から聞いて把握している。日中デイケアに通われている利用者は、デイケアの職員と情報交換を行っている。現在のコロナ禍において友人等が訪れた際には、1階玄関前でガラス越しでの面会となっている。	

自己評価および外部評価結果

確定日:令和3年3月15日

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	共有できる時間(体操)を作ったり、顔を合わせられるような席の配置を職員で話し合いながら行ったりしています。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	移動先の確保について協力させていただいたり、状況確認を行ったり、相談できることは引き続き行っています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(11)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご本人とのコミュニケーションや観察から、希望、意向の把握に努めています。デイケアに通われている方は、そこからの情報を取り入れるなど行っています。困難な場合はご本人の状態を踏まえ対応するように努めています。	普段の暮らしの中で声かけをし、本人の思いを確認しながら把握に努め、支援している。表現が困難な利用者の場合は、表情を観察し、イライラしている様子・原因によっては、看護師が医師と相談し、便秘改善のための工夫や服薬を調整する等、原因となりうる状況を判断して支援に取り組んでいる。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	生活歴や趣味、嗜好、性格的なものなのか、過去の職業に関係するのか、などご家族へも確認し把握するように努めています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	入浴やマッサージ、受診後の疲労など記録、申し送りでの確認、表情や声の様子などからも把握するように努めています。		

自己評価および外部評価結果

確定日:令和3年3月15日

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	(12)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人、ご家族の提案はもちろんモニタリング、職員の声、アイデアも日頃から聞き取られ介護計画に反映しています。	長期目標を1年、短期目標を半年とし、モニタリング、及びアセスメントも半年毎に行われている。サービス担当者会議を受診時に合わせて開催し、主治医や理学療法士等からの意見をもとに、喉のアイスマッサージを取り入れる等の見直しを行い、状態に即した支援に努めている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子、状態変化、変更も記録され申し送りされています。そこから検討、計画変更などに活かされています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人、ご家族の状況も変化していく中でお話を伺い、事業所でできる範囲で情報を提供、支援しています。事業所が主体とならなければならぬ場合はご家族の意向に沿いながら対応しています。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域包括支援センターで確認を行ったりしているが、コロナ禍で思う存分できていない状況がある。		
30	(13)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	受診時にはできる限り同行するようにしています。主治医と情報を共有しながら服薬の相談なども行えるようにしています。同行できない場合はFAX送信や電話連絡をしてスムーズな受診、必要な医療が提供されるよう努めています。	基本今までのかかりつけ医を継続利用とし、1名の方が訪問診療を利用しているが、現在入院中の利用者も状態を考慮し、主治医と相談して訪問診療を検討している。入居時に、受診は家族が付き添うことと伝え、協力が得られており、計画作成担当者も同行し、医師の指示等を確認後、業務日報に記載して情報共有を図っている。コロナ禍のため、特定健診は実施に至っていない。	

自己評価および外部評価結果

確定日:令和3年3月15日

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	常に、報告、相談を行っており、検討、実践しています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入退院がスムーズに行えるよう病院相談員と情報交換を行っている。これまではご家族からの情報もあったが、面会が制限される中、厳しい状況も見られるようになっている。		
33	(14)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に説明も行いますが、日々生活していく中での変化について、予測、検討しながら、どのようなサービスを選択していくことが良いのか、相談するようにしています。	契約時に重度化した場合における対応に係る指針を全利用者家族に説明し、同意が得られている。今年度看護師が職員として配置されており、看取りケアが行える体制を整えている。利用者の状態悪化時等は、看護師を中心に医師と連携を図り、身体状態に応じて重度化した場合や看取りについて家族と話し合いを行っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	あらかじめ、急変の想定、感染症者発生についてシュミレーションを行ったり、検討、対応しています。		
35	(15)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	日中、夜間を想定し訓練は実施しています、備蓄品も用意していますが、地域の方々の参加については、まだまだ把握できていません。	年2回避難訓練を実施し、7月に地震を起因とする災害訓練を実施している。チラシを近隣住民にポスティングし、参加等のお知らせを行っているが、コロナ禍でもあり、参加までには至っていない。備蓄は3日分のレトルト食品・水等を備蓄し、備蓄メニューに発注数や消費期限等も記入して管理を行っている。また、利用者個々の非常用袋に3日分の衣類、オムツ類、薬を入れ、非常時に備えている。	

自己評価および外部評価結果

確定日:令和3年3月15日

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(16)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	お一人お一人の尊厳について意識し、その人らしさを考えています。声掛けの内容や対応に配慮し、自ら口に出せない方への寄り添いも大切にしています。	入職時の法人での新人研修オリエンテーションで守秘義務について説明が行われ、職員は周知している。また、利用契約書でも守秘義務について明示し、家族にも説明を行っている。日常では、利用者のこれまでの生活歴から、家族・地域・社会での地位をその人から発する言葉遣い等で確認し、丁寧語を使用するなど一人ひとりを尊重する対応を心がけている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	着替えやおやつ、テレビ番組など選択しやすいような声掛けに、表出しやすい雰囲気作りへの配慮も行うようにしています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	それぞれの生活リズムの理解、把握も行ってはいますが、日々のルーチン化の中からリズム作りを行ったりと支援しています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	伺える方には確認しながら着替えを行ったり、状況に合わせてコーディネートを行ったりしています。ご自身で整容できる方は協力いただいています。		
40	(17)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	ご自身のペースで自力摂取できるよう、スプーンの大きさや柄の太さ、その方にあった食器に移し替えたりしながら提供しています。安全面を考慮すると準備やかたづけが難しい状況が見られます。	食事は新型コロナウイルス感染予防のため、法人厨房で3食調理し、事業所に配達している。また、職員は法人の通達により弁当を持参し、離れた場所で食事を摂っているため、利用者とともに食事は行っていない。食事を楽しむ工夫では、混ぜご飯を好む方には、おかずによってご飯と混ぜて提供するなど個別対応に努めている。正月・七夕など季節の行事食も提供し、季節感を大切にしている。	

自己評価および外部評価結果

確定日:令和3年3月15日

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	日々の摂取状況の記録や体重計測などを元に、量や形態、とろみ付け、食器の選択などを行い、安心して好んで食べていただけるように配慮しています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	できるADLを維持しながら、訪問歯科のアドバイスもいただき、舌下ブラシ、吸引ブラシ、口腔スポンジなどを使用、対応しています。		
43	(18)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	日中と夜間のおむつの種類を変更し、できるADLを維持しながら、それぞれの排便コントロールなど行っています。	昼夜リハビリパンツ使用の方が7名、常時オムツ使用の方が1名、夜間のみオムツの方が1名で、日中は全利用者にてトイレでの排泄を支援し、夜間はパット交換を中心に行っている。体が小さい方の排泄時には踏み台を利用したり、転倒の多い方は夜間ポータブルトイレを使用し、希望時はトイレに誘導を行う等個別の対応が図られている。夜間は睡眠を優先としたパット交換の時間に配慮ができています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分摂取の状況確認はもちろん、粉寒天やオリブオイル、玄米、きな粉などを提供。排泄時には腹部マッサージなども行いながら予防に努めています。		
45	(19)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入居者によっては民謡を流しながら入浴していただいたり工夫しています。しかし、入居者の希望、タイミングでの実施は難しい状況があります。	入浴は基本週2回実施している。入浴担当職員が介助を行い、平日は同性介助となっている。シャンプー、石鹸は個人の物を使用し、足の浮腫がある方には足浴を行い、入浴を嫌がる方には時間をずらして声かけしたり、曜日を変更するなど利用者に合わせた入浴支援が行えている。	

自己評価および外部評価結果

確定日:令和3年3月15日

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中の覚醒と夜間の睡眠への取り組み(居室の温度や寝具の選択、音への配慮など)を行っています。必要な方へは服薬の調整も行っていません。		
47	(20)	○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	入居者それぞれに担当職員がおり確認を行い、それを看護師が最終確認しています。変更時には情報が共有され状態変化があれば報告し、主治医へ相談を行っています。	与薬・誤薬防止マニュアルを基に服薬支援を行い、与薬時にはダブルチェックに努めている。病院受診後は同行した職員に薬の変更等を確認し、変更時は申し送りを行い、職員間で情報共有が図られている。薬の吐き出しのある方は薬剤師に確認して粉末にしたり、医師に薬の相談を行う等医療との連携ができています。1月と9月に誤薬が確認された。	2階と3階のユニットそれぞれで誤薬が発生しているため、看護師を中心に職員間で再発防止、及び改善への取り組みが望まれる。
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	好みの番組を録画してみていただいたり、CDを聞いていただいたり、集中してパズルをされたりと支援しています。		
49	(21)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	近所への散歩やベランダでの日光浴など支援しています。	2月に2階ユニットと合同での初詣、6月は瀬長島へのドライブに外出し、車椅子の利用者も一緒に可能な限り戸外へ出る機会が図られている。日常では時々近隣の団地前の駐車場等での散歩やベランダでの花を見ながらの日向ぼっこで外気を感じながら気分転換を行っている。生年祝い、お盆の一時帰省の希望が家族から出ていたが、コロナ禍のため個別の外出は中止している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	所持できる方はいらっしやらないため、外出の時になどに支援できるようにしています。		

自己評価および外部評価結果

確定日:令和3年3月15日

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	現在、やり取りをされている方はいらっしゃいません。贈り物のメッセージカードなどは一緒に確認し、お部屋に飾ったりしています。		
52	(22)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	四季を感じていただけるよう、職員は担当制で飾りつけを行っています。清潔を保ちながら異食行動に注意し、室温や湿度などにも気を付けています。	ユニットの玄関入口には、クリスマスツリーとイルミネーションが施され、リビング等も季節に応じた装飾がなされている。玄関入口に椅子、リビングと廊下にソファが設置され、利用者が気軽に寛げる環境に配慮されている。また、ベランダにはプランターにマリーゴールド、4階にはバナナやドラゴンフルーツを植え、花や果物等を見ながら散歩が楽しめる環境となっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食卓席やソファの配置を工夫しています。今年度はコロナ対策が中心になっています。		
54	(23)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室はご本人の使い慣れたものを持参していただいたり、ご家族の写真を飾るなど工夫しています。またご家族からのプレゼントは必ずお部屋に飾っています。	居室には家族写真が飾られ、馴染みの鏡付きチェスト、ソファ、ラジオを置き、本人が居心地よく過ごせる設えとなっている。また、本人と孫がそれぞれ書いた書の作品も飾られ、家族との繋がりが大切にしている。居室は電動ベッドが設置され、利用者の状態に応じてベッドの高さ等の調整ができるようになっており、利用者の状態に対応できる環境となっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレマークや居室のお名前の掲示、トイレで踏み台を使用して便座に移乗したり、ベルで職員を呼んでもらったり、それぞれの状態に合わせて工夫しています。		